

「月給 3 0 万円」

—初稿—

2026/8/24

米俵

〈人物表〉

松永 拓海

(25)

フリーター

松永 航平

(19)

大学生・拓海の弟

戸田 修一

(46)

工場の先輩作業員

小宮 美咲

(31)

工場の先輩作業員

黒川 誠二

(52)

工場の責任者

作業員A

作業員B

1. アパート・室内（夜）

古びた六畳一間。二組の布団が敷いてある。

松永拓海（25）、布団の上でスマホを見ている。

松永航平（19）、その横で着替えている。

拓海のスマホ画面。求人広告。未経験歓迎・ラベル貼り・月給30万円。

拓海 「……30万？」

航平 「なに？」

拓海、スマホ画面を見せる。

航平 「ラベル貼るだけ？ 怪しいって」

拓海、スマホ画面をスクロール。

拓海 「シャワー室完備」

航平 「条件が良すぎる」

拓海 「最高だろ」

航平 「……俺も働くって」

拓海 「航平、お前は勉強しろ。で、ちゃんとしたところで稼げ」

航平 「兄貴も怪しいって思ってたんじゃない」

拓海 「まあ、採用されるかわかんねーし」

と、応募ボタンを押す。

航平 「変なのだったら、すぐ辞めろよ」

拓海 「分かってるって」

と、再び横になる。

2. 工場・外観（朝）

郊外。窓の少ない灰色の工場。

3. 工場・廊下（朝）

作業着姿の拓海。

黒川誠司（52）の後ろを歩いている。

黒川 「難しい作業はありません。箱から商品を出して、ラベルを貼って、また箱に戻す。それだけです」

拓海 「ほんとにそれだけですか？」

黒川、振り返る。

黒川 「不満ですか？」

拓海 「いや。逆で……」

黒川 「長く続けてもらえると助かります」

拓海 「……そのつもりです」

黒川、扉を開ける。

4. 工場・作業場（朝）

長机が並んでいる。

数人の作業員が黙々とラベルを貼っている。

黒川 「あそこ」

黒川、空いている席を指さす。

黒川 「分からないことがあれば、戸田さんに聞いて」

と、すぐに去っていく。

戸田修一（46）、手を挙げる。

拓海、席につく。

向かいの小宮美咲（31）は作業を続けている。

戸田 「作業は簡単だから。ここ剥がして、これ貼るだけ」

戸田、無地のタバコサイズの箱にラベルを貼る。

拓海も同じことをする。

拓海 「……ほんとにこれだけなんすね」

戸田 「これだけ」

拓海、ちよつと笑う。

拓海 「30万つすよね？」

戸田 「俺も最初それ聞いた」

拓海 「ですよね」

拓海、匂いを嗅ぐ仕草。少し鼻を動かす。

拓海 「……なんか匂いませんか？」

戸田 「ああ」

拓海 「薬品？」

戸田 「そのうち気にならなくなるよ」

小宮 「私はまだ分かるけど」

拓海、小宮を見る。

小宮 「気持ち悪い匂い」

戸田 「まあ、匂いの感じ方は人それぞれだから」

困ったような笑顔を拓海に向ける。

拓海 「……そうっすね」

5. 工場・シャワー室

個室が3つ。

出てきた戸田とすれ違う。

戸田、会釈。

拓海 「お疲れさまです」

拓海、シャワー室に入る。

備え付けのシャンプー・ボディソープを発見する。

拓海 「お、ラッキー」

シャワーを浴びる。

6. アパート・室内

航平、机で勉強している。

拓海、コンビ二袋を提げて帰ってくる。

拓海 「ただいま」

航平、拓海を見る。

航平 「……なんか、変な匂いする」

拓海、自分の服を嗅ぐ。

拓海 「まじ？ シャワー浴びてきたけど」

航平 「……」

拓海 「工場、ちょっと臭うんだよな。それかな？」

航平 「やっぱ怪しいじゃん」

拓海 「ラベル貼ってるだけだって」

と、コンビ二袋から弁当を取り出す。

拓海 「しかも風呂代浮くし」

航平、心配そうに拓海を見る。

7. 工場・作業場（朝）

拓海たち、黙々とラベルを貼っている。

拓海、箱を眺める。

拓海 「これ、タバコっすよね？」

戸田 「多分ね」

拓海 「多分？」

小宮 「ゾンビタバコ」

拓海 「え？」

小宮、手を止めずに、

小宮 「聞いたことない？ 最近、出回ってる吸った人がおかしくなるやつ」

戸田 「またその話？」

小宮 「この箱、動画で見たのと同じ」

拓海、手元の箱を見る。

拓海 「マジっすか？」

戸田 「ネットはほら。何でもゾンビにするから」

小宮 「じゃあ吸ってみれば？」

戸田 「嫌だよ」

拓海、笑う。小宮は笑わない。

しばらくして、小宮が手を止める。

小宮 「……やっぱ今日、匂いキツイ」

戸田 「そう？」

拓海、鼻を動かす。

拓海 「昨日よりマシじゃないすか？」

小宮、拓海を見る。

そのとき、少し離れた席の作業員が激しく咳き込む。

拓海たち、すぐにそちらを見る。

スピーカーから、黒川の声。

黒川の声 「大丈夫ですか？」

作業員 「なんか……ちよっと、気持ち悪くて」

黒川の声 「今日は、気にせず上がってください」

作業員 「でも——」

黒川の声 「大丈夫です」

妙に優しい口調。

黒川の声 「残りは、こちらでやりますから」

作業員、出ていく。

拓海、その背中を見る。

戸田 「ほら、手止まってる」

拓海 「あ、すみません」

と、作業に戻る。

8. 工場・作業場（朝）

Ｔ「次の日」

拓海、作業場に入る。

足を止める。

戸田、小宮の席が空いている。

昨日、作業員Ａの席も空いている。

拓海、辺りを見回す。

作業員Ｂ、黙々とラベルを貼っている。

拓海 「……戸田さんは？」

作業員Ｂ 「知らない」

拓海 「小宮さんも？」

作業員、首を横に振る。

拓海、納得できないまま作業を始める。

9. アパート・室内（夜）

玄関が開く。

拓海 「ただいま」

航平 「おかえり」

航平、スマホを見ながら、何かを手で弄んでいる。

拓海、航平の手元を見る。

拓海の動きが止まる。

見覚えのあるタバコの箱。

拓海 「おい。それ、どうした？」

航平 「ん？」

拓海、箱を奪い取る。

航平 「何だよ」

拓海、箱を見る。

工場のもと同じ。

拓海 「どこで手に入れた？」

航平 「友達にもらった」

拓海 「お前、吸わないだろ」

航平 「……兄貴と同じ匂いだったから」

拓海 「……」

航平 「返せよ」

航平、取り返そうとする。

拓海 「ダメだつて」

航平 「何なんだよ」

拓海 「これ、俺の工場で作ってるやつなんだよ」

航平、手を止める。

航平 「やっぱり」

拓海 「……吸った奴がおかしくなるって噂がある」

航平 「は？ そんなの作ってんの？」

拓海 「ラベル貼ってるだけだよ」

航平 「辞めろよ」

拓海 「簡単に言うなよ」

航平 「最初に言っただろ。変だったら辞めろつて」

拓海 「分かってるよ」

航平 「分かってないだろ」

拓海 「お前には関係ない」

航平 「関係あるだろ」

拓海、航平を見る。

航平 「兄貴、ずっと変な匂いしてんだよ」

拓海 「……」

航平、拓海からタバコを取り返す。

匂いを嗅ぐ。

航平 「ほら、同じ匂いする」

拓海 「嗅ぐな」

と、箱を奪い返し、鼻に近づける。

拓海 「……」

もう一度、嗅ぐ。

拓海 「……わかんねーよ」

航平 「するつて。頼むから、もう辞めろよ」

拓海、タバコを見つめる。

10. 工場・黒川の部屋（朝）

黒川、机に向かっている。

拓海、昨日のタバコの箱を机に置く。

黒川 「どうされました？」

拓海 「吸った奴がおかしくなるって噂、知ってます？」

黒川 「ええ。気になりますか？」

拓海 「当たり前でしょ」

黒川 「そうは見えませんでしたか？」

拓海 「……」

黒川 「それで？」

拓海 「戸田さんも小宮さんも急にいなくなつて——」

黒川、かぶせて、

黒川 「戸田さんは辞めてませんよ」

拓海 「え？」

黒川 「次の段階に進みました」

拓海 「次？」

黒川 「松永さん、もう匂い感じないでしょう？」

拓海、黙る。

黒川 「作業場には、特殊成分を流しています」

拓海 「……俺たちに？」

黒川 「小宮さんは不適合。戸田さんとあなたは適合しました」

拓海 「なんだよそれ」

黒川、一枚の紙を差し出す。

「次段階 月給45万円」と書かれている。

拓海、紙を手取る。

黒川 「戸田さんは、もう始めています」

黒川 「辞めてもかまいません。どうされますか？」

拓海 「なにするんですか？」

黒川 「ラベルを貼るだけですよ」

拓海、少し考えて、

拓海 「シャワー浴びれば、成分は流れるんですよね？」

黒川 「ええ。そのはずですよ」

沈黙。

拓海 「いつからですか？」

黒川 「今日からでも」

と、微笑む。